

平成24年度

施政方針

平成24年2月

飯山市

平成24年度 施政方針

平成24年3月定例市議会の開会に当たり、平成24年度に臨む、施政の基本方針を申し上げ、市民の皆様、並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

昨年12月中旬から降り続いた雪は、平成18年豪雪にほぼ匹敵する大雪となり、除排雪による死亡事故も発生し、市民の皆様の懸命な除排雪作業も限界に達したため、2月1日から災害救助法の適用を受けたところです。主に弱者世帯や降雪量の多い山間地域を中心に、重機を投入し、ボランティアや職員の手も借りながら危険回避のための除排雪作業を行ったところでもあります。

この大雪により、市民生活に大きな影響を受けるとともに、3人もの尊い命がうばわれてしまいましたことに対し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。負傷者や倒壊家屋も出ており、関係の皆様にお見舞い申しあげるとともに、県内から、ボランティアあるいは見舞金等多くの皆様に応援をいただきましたことにつきまして、心より感謝を申し上げる次第であります。

少子高齢社会を迎えた今、自力で雪を処理することが困難な家が多くなってきています。地域では、自主防災会の活動やお互いの助け合いを実践

していただいているところですが、記録的な大雪では限界もあります。災害に対しては、日々の備えを怠ることなく、自助・共助・公助の連携をとりながら対応していくことが必要と考えております。

一昨年9月の就任以来2年目を迎えています。北陸新幹線飯山駅開業が3年後と迫るなかで、駅開業を飯山市発展のチャンスとして、施設整備はもちろんのこと魅力あるまちづくりのための各種施策を着実に実行し、一步一步課題を解決しながら、夢のある、活気ある飯山市の実現に向けて、邁進（まいしん）する所存であります。

選挙公約に掲げました「新幹線飯山駅開業に向けての魅力あるまちづくり」「産業振興と雇用対策、定住施策」「飯山らしい教育と文化の香る地域づくり」「子育て支援や高齢者がいつまでも安心して暮らせる地域づくり」と「健全財政運営、人材育成、防災対策」の5項目について市民と力を合わせ進めてまいりたいと思います。また、各集落で開催している市政懇談会には多くの皆さんにご参加いただきました。懇談会でのご意見や課題を共有して、市民の皆様と協力しながら市政運営に活かしてまいりたいと考えております。

ここで、市政を取り巻く国や県の状況等をご説明申し上げ、ご理解を賜りたいと存じます。

政府の「平成24年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」では、

本格的な復興施策の推進に伴い着実な需要と雇用の創出が見込まれ、国内需要が成長を主導し、我が国の景気は緩やかに回復していくことと見込まれております。

しかしながら、ヨーロッパの政府債務危機の深刻化等を背景とした世界経済の減速、円高の進行やそれに伴う国内空洞化の加速や電力供給の制約などが日本経済に影響を及ぼし、景気が下振れするおそれもあり、経済情勢は依然として先行き不透明な状況が続くと思われまます。

国の新年度予算案も、前年度当初比 2.2%減と 6 年ぶりに前年度を下回りましたが、東日本大震災復興予算 3 兆 7 千億の特別会計新設と年金交付国債など実質的には過去最大の予算規模となったところです。企業業績の持ち直しなどの背景により前年度より税収が伸びるものの、新規国債の発行が 3 年連続で税収を上回る異常事態となっています。

さらに、一昨年来のねじれ国会が続いており、3 党合意がなされていない予算案の計上などで予算案や関連法案の衆議院通過が遅れるとの見通しもあり、年度内に予算案や関連法案が成立しない場合は、国民への影響と共に地方への影響もあると思われまますので国の動向について充分注視してまいりたいと思ひます。

長野県にあつては、阿部知事就任後 2 回目の予算編成となり、「信州らしさを活かした元気創出」予算を編成したところです。自然エネルギーの普及や観光振興などの分野に重点配分を行い、県内産業の下支えや雇用の確保等の当面する課題への対処と同時に、「信州らしさ」を一層強化し、地域

の元気を創出することを意識し、県税収入が伸び悩む中で財源不足を基金の取り崩しで対応するなど、ある程度積極的な予算編成を行ったところで

す。

平成24年度の飯山市の重点施策として新幹線駅開業に向けた広域観光の推進、農業振興、人材育成に取り組んでまいりたいと考えています。

一つ目の広域観光については、「信越9市町村広域観光連携会議」の事務局として経済部に「広域観光推進室」を4月に新設し、新幹線駅開業の効果を最大限に活かし、交通アクセスの整備や観光資源の強化・開発などにより国際的にも通用する一大国際観光リゾート地域をめざし、農業、商工業、健康・医療、教育分野とも連携することで地域経済の発展を図ってまいります。

二つ目の農業振興については、国が求めている地域農業マスタープランを作成し、国の支援を受けながら、地区組織の再生や後継者対策・農地集積など地域農業の再編を図ってまいります。また、産地強化支援、新品種等の導入やマーケティング支援補助を行う中で農業振興を図ってまいります。

三つ目の人材育成については、社会情勢の変化による行政需要の多様化・複雑化と、現下の経済情勢による職員数の抑制もあり、職員の専門性が一層要求される状況にあります。これらに対応するため、人材育成と目標管理・人事評価を並行して行うことで、一体的な職員の人材育成を行っ

てまいります。

事業実施に当たっての裏付けとなる飯山市財政についていえば、ここ数年来の厳しい財政状況に変わりはありません。市税につきましては、税収の落ち込みが予想されますし、交付税の伸びも期待できない状況であり、基金の取崩しや過疎債などの借入により収支の均衡を図ってまいります。

しかしながら、厳しい財政状況の中、協働事業による投資の抑制や起債借入を極力少なくしてきた結果、公債残高は大幅に減少し、普通会計の23年度末残高で78億円ほどとなる見込みです。ただ平成27年度までは新幹線関連整備や飯山ぷらざの建設等の大きなプロジェクトを控えていることもあり、一時的に公債残高は増加する見込みであります。長期財政計画を策定するなかで、経常的経費の削減を図り、事業の選択と重点配分をすることで、将来にわたり安定した財政運営を進めてまいりたいと考えています。

それでは、平成24年度予算の特徴と、施策の概要を申し上げます。

予算総額は、一般会計で134億1千万円、前年度対比マイナス1.4%、1億9千万円の減であります。

歳入面では、市税を前年度より5千万円減の22億5千万円を計上、交付税を前年度より1億5千万円減の54億円を計上し、不足分を市債及び繰入金で対応しました。

歳出につきましては、前段申し上げたとおり、後期基本計画の四つの柱と公約の5項目及び過疎計画に基づく具体的な事業を中心に、新幹線駅開業に向けた施設整備、飯山まちづくりデザイン会議の提言を踏まえたまちづくり、新幹線飯山駅都市施設の整備など新幹線関連の事業、第三子以降保育料等の無料化や中学生までの医療費無料化など子育て支援施策を引き続き行い、住宅リフォーム補助など市民生活に密着した事業等々、多岐にわたり計上しながらも、事務事業評価結果による枠配分を行うなど、メリハリをつけた予算編成となりました。

市税、地方交付税など基幹収入が減少するなど限られた財源の中、より効率的に、そして、市及び地域が活性化するよう事業推進を図ってまいりたいと思います。

以下、「公約の重点政策5項目」に関わる事業についてご説明申し上げ、24年度の市の姿をご理解頂ければと思います。

一つ目は、飯山市の発展へ向けた転換点となる重要課題であります『新幹線飯山駅開業に向けての魅力あるまちづくり』への取組みであります。

先に申し上げましたとおり、新幹線飯山駅開業がいよいよ間近に迫ってきました。区画整理事業がほぼ予定どおりに進み、新幹線飯山駅都市施設の工事も始まるなど施設整備は順調に進んでおります。

しかしながら、開業までに魅力あるまちづくりが出来なければ、飯山駅

はたんなる通過駅として終わってしまいます。昨年「まちづくりデザイン会議」でまちづくりの提言をいただいたところですが、その提言を踏まえ魅力あるまちづくりへ向け全力で取り組んでまいります。

具体的事業としまして、まちなか環境整備、案内サイン整備などのまち並整備や個人の修景整備へ支援するまち並整備支援、飯山城跡の復元整備、仁王像の展示施設整備などに取り組み、開業までに魅力あるまちづくりを計画的に進めてまいります。

二つ目は、『産業振興と雇用対策、定住施策』への取り組みであります。

商工業の振興では、引き続き企業誘致を進め、地域資源を活用した製品の製造や販売などの起業者に対する支援、魅力的な土産品等の開発支援を行います。また、「斑尾高原山の家」の改修と合わせ、先に申しましたとおり「広域観光の推進」を図り、「新幹線開業に向けた誘客イベント」「インバウンド推進」など国内外観光客の誘客事業等々、交流人口の拡大にむけ注力してまいりたいと考えています。

そして、市の基幹産業であります農業振興策として、国の方針に基づき地域農業マスタープランを作成し、新規就農者や農地集積への支援などにより地域農業の再編を行い、あわせて新品種導入や産地強化の支援、農産物の販売推進、アスパラガス再生のための雨よけ施設の支援を行い、農業生産額の向上を図り元気な農業づくりを進めてまいります。

また、引き続き中山間地域直接支払い制度や農地・水保全管理支払制度

により、中山間地の農業生産の維持や農地保全等への共同活動に対する支援や市と地元と協働で行う農業用排水路や農道の整備、里山や森林の下草刈りなど「協働のむらづくり」や「協働のもりづくり」を行うなど各種事業実施により、飯山市農業の振興を図るものであります。

次に、定住施策ですが、「三世代等同居住宅建設支援事業」、「移住・定住推進事業」、「住宅リフォーム支援事業」などや未婚男女の出会いの場を提供する取り組みの他、冬期の道路交通確保のため、主要市道の整備や除雪融雪対策を実施してまいりますし、弱者・高齢者への交通対策として、23年度に検討してきた公共交通のあり方に基づき市民の皆様の意見をうかがう中で新たな公共交通システムを実施し、住民の交通の確保に努め、定住のための環境整備を行います。

三つ目は、『飯山らしい教育と文化の香る地域づくりの推進』であります。

飯山市の学校教育の理念は「ふるさと飯山の自然や生活、歴史や文化の学習を通して、豊かな感性とたくましい心と身体を育て、創造的に自らの夢に挑戦するとともに、ふるさとの未来をひらく児童生徒の育成を目指す。」とされており、この理念に基づき飯山の将来を担う子ども達を育成していく必要があります。

具体的な事業としまして、小学校・中学校・高校の連携による算数・数学の学力向上と小学校英語活動の充実を図る「学力向上総合対策事業」、学力実態調査や信州大学と連携して教員の指導力向上や授業改善を行う「わ

かる授業・確かな学力育成事業」、小学校中学校に外国の英語指導助手をそれぞれ2名雇用する「英語指導助手招致事業」などを行い、確かな学力の向上を目指しつつ、「飯山市ふるさと教育指導計画」に基づきふるさと飯山の自然や生活、歴史や文化の学習を進め、ふるさとへの感心や愛着を育てる「飯山らしい教育」を推進してまいります。

その他、戸狩小学校の大規模改修や小学校の保健室にエアコンを順次整備して教育環境の整備を図り、日常生活や学習に支援が必要な児童・生徒に対応する「特別支援教育支援員配置事業」や県の補助金を活用し不登校児童生徒への訪問指導員を雇用する「不登校児童生徒支援事業」を実施し、どの子にも適切な学習の機会を保障し、個別対応や少人数できめ細かな指導を必要とする子どものために教員加配を行ってまいります。

そして、文化・スポーツ振興として、建設検討委員会で検討報告いただき市として建設方針を策定した（仮）飯山ぷらざの建設に向け、実施設計と用地購入など実質的に着手してまいりますし、スポーツ資源と観光事業の融合を図る「スポーツツーリズム推進事業」によりスポーツを活用した観光の活性化に新たに取り組み、ジュニアスポーツの振興にも力を入れていきたいと思っております。

その他、市民プールやマレットゴルフ場の改修を行う「スポーツ施設リフレッシュ事業」や新たにジュニアアルペンクラブの交流センター整備や、青少年団体等のレベルアップを目指した活動への支援を行う「青少年団体特別活動支援事業」、市内の動植物等の保全と活用を検討する中で、生物多

様性保全活用計画書の策定などに取り組んでまいります。

四つ目は、『子育て支援や高齢者がいつまでも安心して暮らせる地域づくり』への取り組みであります。

全国的な少子化に伴い当市においても出生数は減少傾向であり、安心して子どもを産み育てる環境づくりが急務となっており、子育て支援に早急に取り組む必要があります。

昨年度に引き続き、3人以上の子どもがいる家庭において、第3子以降の子どもが保育園等に入園する場合は、保育料等を無料にします。また、乳幼児・児童等の医療助成についても、中学3年生までを対象に医療費負担の軽減を図ります。

その他、各種保育サービスの充実、放課後留守家庭対策としての児童館・学童クラブの運営、秋津児童クラブの改修整備、しろやま保育園の改築、子育て相談事業や子育て支援センター運営事業などを実施します。また、24年度から長野県が実施している「ながの子育て家庭優待パスポート事業」に参加し、多くの企業や店舗に協賛をいただきながら、地域全体で子育て家庭を応援してまいります。

このように各施策を行いながら、安心して子どもを産み、子育てができる環境を整えることで、少子化に歯止めをかけたいと考えております。

高齢者や障害者が安心して暮らせるための地域づくりも重要であります。

市民や高齢者がいきいきと暮らしていくためには健康であり続けること

が大事であります。新年度からは、新たに乳幼児の検診に視機能検査を取り入れ視力障害の早期発見に努め、肺がん検診ではヘリカルCTを取り入れより精密な検査も受けることができるようになります。あわせて、新年度より脳脊髄液減少症患者に対する医療費の支援を行ってまいります。

昨年度に引き続き「健康増進プログラム支援事業」や「人間ドック費用助成事業」、「特定健診・特定保健指導事業」を実施するなど市民の健康増進を図り、医療費の抑制に努め、医師確保のため医学生の奨学金や医師研究資金の貸し付けを行い、安心して生活できる環境を整えます。

その他、あらたに県の緊急雇用を活用した一人暮らし高齢者等の緊急情報の整備、障害者・寝たきり老人等のタクシー券の給付対象を要介護度2までへ拡充、要介護とならないための「介護予防すこやか支援事業」など各種予防事業や冬も安心して暮らせるよう「災害救助員派遣事業」も引き続き実施し、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進めてまいります。

また、生活環境施策として、新たに常盤第一農業集落排水を公共下水道に編入する事業に着手し、小菅簡水の水質汚濁解消のため配水管を整備するなど生活環境の整備を進めます。

五つ目は、『健全財政運営、人材育成、防災対策』の取組みであります。

健全な財政運営があるからこそ、各種施策を推進することができます。税収入が減少し交付税収入も不透明な中、大型プロジェクトが続き、大変厳しい財政状況ではありますが、有利な過疎債を活用し事業を進めるとと

もに、長期財政計画に基づき行政評価による事務事業の見直しを継続的に
行い、行財政改革を進め、今後も事業の選択と集中をしながら効果的な投
資を行うなど、将来債務が大幅に膨らむことのないよう健全な財政運営を
進め、先に申しあげました人材育成とあわせ多様化する行政需要に対応で
きる市政運営を行ってまいりたいと思います。

次に防災対策であります。昨年の東日本大震災、本年の豪雪災害を教訓
とし、いつ災害が発生しても対応できる体制づくりを進めてまいりたいと
考えております。再度、自主防災会の組織化の推進と育成強化に取り組み、
地域における「共助」の中核として、活動できるような体制づくりを進め、
耐震型防火水槽の設置や軽積載自動車の更新を行うなど、防災対策を進め
てまいります。

以上、私の公約に基づく重点施策について申しあげました。

最後になりますが、3年後に迫った新幹線飯山駅開業という大きなチャ
ンスをいかに活かしていくかが、今後の市政発展の分かれ目といっても過
言ではありません。新幹線飯山駅を活用した市の発展を目指すには、魅力
あるまちづくりのための基盤整備はもちろんのことではありますが、広域観
光圏での取り組みやまちづくりのためのソフト事業が重要であり、24年
度はこのソフト事業を重点的に進めてまいります。

飯山市には移りゆく四季の変化とその折々の景観があり、宝物がたくさ

んあります。この多くの宝を活かし、機を逸することのないよう市民の皆様と手を取り合い共に努力することで、さらに活気ある飯山市をつくっていく所存であります。

市民と共に手を取り合いながら、この美しいふるさと飯山を次の世代に引き継げるよう市政発展のため努力する所存ではありますが、議員各位のご支援ご協力を心よりお願い申し上げ、所信表明と致します。

平成 24 年 2 月

飯 山 市 長 足 立 正 則